

2017年2月11日～12日 冬合宿 八ヶ岳 赤岳主稜

メンバー：谷内、倉沢、久保、宮坂（伊那）

ここ数年、しらびその冬合宿は冬の生活訓練と大人数での行動が主。ここで冬山の経験を積み次へのステップに繋げる山行です。今年は参加者が少なく、泊組と日帰り組に別れましたが異なるコースで赤岳に登り、奇しくも山頂付近で合流となりました。こちらは、泊組の記録です。

コースタイム

11日 美濃戸 6:30～行者小屋 9:20 (10:20 発)～取付き下見 11:10～行者小屋 12:00

12日 行者小屋 4:50～文三郎道分岐 6:00～主稜登攀開始 7:00～登攀終了 11:00 (縦走路への合流)～赤岳 11:25～ (地蔵尾根経由)～行者小屋 12:10 (12:45 発)～美濃戸 15:15

・美濃戸を 6:30 に発。雪がしっかり付いている南沢に行く。当初は、行者小屋を経て大同心稜から横岳、行者小屋にテン泊となる予定でしたが、ここ数日の降雪が 20～30 cm、行者小屋周辺の積雪量は 100 cm 強有り。大同心ルンゼの危険性が高いと判断し、行者小屋でテント設営後、翌日の赤岳北峰リッジ（主稜）への偵察に行く。文三郎道からのトラバースはクラストした雪面と薄く乗ったこしもざらめ雪。トレースは無く当日入ったパーティは無さそう。翌日のシュミレーションを行い、強風と寒さに堪えテン場へと戻る。途中、南稜リッジに行くという 2 パーティとすれ違い、すぐ横に見える阿弥陀岳の北稜に取り付いている人はラッセルに難儀してそうである。テン場に着き、残りの時間をテント内でぬくぬくと過ごす。夕食は石狩鍋風煮込みラーメン。いつも通り旨い。18:00 就寝。夜半は曇り空で、予想された冷え込みも少なくゆっくりと寝ることが出来た。

・翌日 12 日。満月の下、予定通り 4:50 テン場発。登攀最中は補給する暇が無いので朝飯時には水分、栄養をしっかりと取る。当日は一番手で主稜に。文三郎道からのトラバースはフィックスで、取付きからは、谷内-久保、宮坂-倉沢の順のオールリードにて登る。前日までの新雪が岩を隠し、トップは後続の為にスタンスやホールド、支点の雪を払いながら進むため時間が掛かる。後続はこんなところでも楽をさせてもらっているかとしみじみ思う。西風と寒さと待ち時間で足先、指先が痛くなるが動けば大丈夫、想定内。ダブルロープの扱いと、たるませ無いようにと進み具合をセカンドとして注意する。都合 7～8 ピッチだったと思うがやる事が多くて覚えていない。左手に文三郎道に行く登山者を見ながら、ゼイゼイと終了点に上がりメンバー同士でガッチリ握手。初級者 2 人頑張りました。ベテランの 2 人ありがとうございます。ここで、縦走路からショルダーを越えてきた日帰り組が見えて、合流後赤岳へ登り記念写真。その後、地蔵尾根を下り帰途へ。

・明るい空の下、念願であった主稜にセカンドですが行くことができ感無量です。これからの為にももっと精進せねばと思い直した山行となりました。